

長崎医科大学附属図書館における原爆の被害と復興

松村 悠子

長崎大学附属図書館

昭和 20(1945)年 8月 9日に長崎市に投下された原子爆弾により長崎医科大学附属図書館は甚大な被害を受けた。その被害について、現存する史料を用いて資料・建物・人員の 3つの観点から述べる。また戦後の復興に関しても、蔵書冊数が戦前の水準まで回復し、建物が独立し、現在の医学分館となる昭和 54(1979)年までの歴史を調査する。

昭和 20(1945)年	8月 9日、原子爆弾により長崎医科大学及び同附属医院は壊滅状態。 同月に医科大学本部を長崎商工会議所に移転。 9月、医科大学本部を長崎経済専門学校へ移転。 10月、医科大学本部を新興善国民学校へ移転。
昭和 21(1946)年	6月、医科大学本部、附属医院、基礎医学教室を旧佐世保海軍病院諫早分院（諫早市永昌町）に移転。附属図書館も興善町から諫早へ移転。 第 16回医科大学附属図書館協議会（京都）にて、罹災館復興に各館の援助要請（長崎）。
昭和 23(1948)年	浦上の元附属医院外来本館に基礎医学と附属図書館を移転。
昭和 24(1949)年	5月、国立学校設置法により国立長崎大学医学部が設置。長崎医科大学附属図書館は、長崎大学附属図書館医学部分館となる。
昭和 28(1953)年	4月、旧長崎医科大学図書館書庫 2棟を改修、医学部分館として使用。 5月、北アメリカ、ミシガン長老教会より医学図書 46冊受贈。
昭和 29(1954)年	1月、故田代規矩雄より医学図書 302冊及び雑誌 2,476部を受贈。 3月、中央図書館を長崎市興善町 35番地より医学部構内に移転。
昭和 30(1955)年	3月、浅田一氏旧蔵書 1,182冊を購入。
昭和 31(1956)年	3月、中央図書館を長崎市大橋町の学芸学部校内に移転。
昭和 38(1963)年	蔵書冊数（合計）が戦前の水準に回復。 4月、医学部分館をチャイナ・メディカル・ボード財団の資金援助を受けて、医学部基礎第一研究棟 2階へ移転。
昭和 43(1968)年	9月、第 3回医学図書館員研究集会会場。
昭和 54(1979)年	1月、医学部分館新館完成。 4月、医学部分館は熱帯医学研究所を含めた複合分館として発足、医学分館と改称。